

◆ 「やさしさ」を支える思いやりの心

11月24日に起きた、愛知県弥富市立中学校3年生男子の同学年生徒による刺殺事件は、学校教育関係者ばかりでなく、社会全体に大きな衝撃でした。安心して学べる場であるはずの学校で起きてはならない事件だったからです。報道によると「嫌なことをされて、恨みを募(もの)らせた」と話しているそうですが、2人は同じ小学校出身ということが気になりました。もし、小学校から中学校にかけての長い期間に亘(わた)る、嫌がらせ(あるいは受ける方が「嫌がらせ」と感じる)があったのだとしたら、どこかで誰かに相談して解決できなかったものかと残念に思います。丁度、前々日に先生達と「困り事アンケートにいじめを書かない子が居るから良く見ていきましょうね」と話したばかりだったので、特に驚きました。

また、加害生徒が最後の一线を越えないように相談する人は居なかったのかと残念に思います。恨みを持つことは誰にでもあると思いますが、その恨みを晴らすのに相手の命を奪うと同時に、自分や家族の人生を台無しにするような方法は決して選んではいけないと子ども達に改めて教えなければならないと感じました。



件(くだん)の2人に欠けていたという訳ではありませんが、「こんなことを言われたら、どう思うかな」とか「こんなことをされたら、どうだろう」という相手を思いやる心が大切だと思います。およそ2500年も前の人物でありながら、今でも世界中の人々により良い生き方の示唆を与え続けている、孔子の言葉をまとめた『論語』に以下のような一節があります。

子貢問いて曰く「一言にして以て終身之を行う可き者有りや」※子貢：孔子の弟子
(子貢が孔子に質問した。「人が生涯おこなっていくべきことを一言で言うとしたら何でしょうか。)」

子曰く「其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」
(孔先生は言われた。「それは恕(人を思いやること)である。自分がして欲しくないことは、他人にもしてはならないということだよ。)

西暦が始まるずっと前から現在まで、人と人との関わる上で大切にしなければならないことは変わらずに、「思いやりの心」なのではないでしょうか。みんなが思いやりの心を持ち、やさしさで溢れる社会が子ども達を包み、子ども達の「やさしさ」が醸成されることを願っています。

◆ SNS(ソーシャルネットワークサービス)の功罪

弥富市立中学校事件の動機「嫌なこと」についての詳細は報道されないかも知れませんが、一部の情報によるとSNSのLINE(ライン)でのトラブルがあったのではないかとことです。私も家族や友人とLINEグループを組んで便利にスマホを使っていますが、小中高生にはLINE等のSNSはいじめの温床になることが多いようです。親にも先生にも見えないというのが問題で、他地区の中学校では、友だちのLINEグループからの仲間外れとか、誹謗中傷とかで不登校になってしまった生徒がいました。また、孤独感を癒したくてSNSの世界に入ったのに余計に孤独感を感じてしまったという子どもにも出会いました。便利なSNSもコミュニケーション能力が未熟な子どもには「百害あって一利なし」なのでしょう。



学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になうて2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。